

【開催要旨】

第10回 木曽川上流水防災協議会(岐阜ブロック)を開催し、「木曽川上流の減災に係る取組方針(令和3年度～令和7年度)」のフォローアップを行いました。重点的な取組である「教育委員会と連携した小・中学校への防災教育の幅広い推進」及び「排水作業準備計画の作成と計画に基づく訓練」について、令和5年度の実施内容と令和6年度の取組(案)を確認しました。また、住民防災意識アンケート及びフォローアップの結果等を踏まえて、水害リスクの自分事化の参考となる取組(岐阜市、瑞穂市、岐南町、大垣市、木曽川上流河川事務所)を共有した。

- 日 時： 令和6年5月10日(金) 15:15～16:15
- 場 所： 長良川国際会議場 5F 国際会議室
- 出 席 者： 43機関(県、市町、気象台等 約60名)
- 議 事：
 - 1) 規約改定(案)
 - 2) 「木曽川の減災に係る取組方針」令和5年度のフォローアップについて
 - ① 令和5年度の取組結果のフォローアップ
 - ② 令和5年度 住民防災意識調査アンケート結果
 - ③ 木曽川上流水防災協議会における課題を踏まえた取組事例の紹介
 - 3) 重点的な取組について
 - ① 教育委員会と連携した水防災教育の推進について
 - ② 排水作業準備計画の作成について
 - 4) その他の取組について(流域タイムライン、WEB会議ツールの活用)

▲ 協議会の様子
齊藤事務所長 ▶

「木曽川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組①
教育委員会と連携した水防災教育の推進について

【令和5年度の取組内容】

- ・ 水害危険性を整理した資料などの活用しやすい教材等を提供するために、防災教育ポータルサイトを再構築した。
- ・ 出前講座を広報するため、『災害・避難カード』を活用した授業の広報用動画を作成した。



▲ 広報用動画(一部抜粋)

「木曽川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組②
排水作業準備計画の作成について

【令和5年度の取組内容】

- ・ これまで先行的に羽島ブロックで検討した内容を他の氾濫ブロック全体にも広げるために、関係機関に排水作業準備計画図(案)の意見照会を実施した。
- ・ 意見照会の回答を反映した排水作業準備計画図の配布を行った。



▲ 排水作業準備計画に関する広報用動画(一部抜粋)

木曽川上流河川事務所からの取組事例の紹介

【まるごとまちごとハザードマップの推進】

- ・ 生活空間である「まちなか」に水防災に関する各種情報を表示する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組を推進するために、新たなデータ(水害リスクマップ・人流データ)を活用した評価方法を紹介した。



▲ まるごとまちごとハザードマップの例

【イベントで活用できる動物をモチーフとしたアンケートの作成、実施】

- ・ 楽しみながら自分の防災意識を確認できるアンケートを紹介。
- ・ 自分のタイプに応じた対応をアドバイスシートで確認することで、住民の方は、気づきを得ることができる。



▲ 動物をモチーフとしたアンケート

⇒ 次頁に市町の取組事例について記載

【市町の取組事例の紹介】

【岐阜市】3D洪水ハザードマップの提供

- ・リスクの存在を考えたことがない方々の防災意識向上に向けて、防災フェア、防災アトラクション、地域の学校への出前講座等の成果を上げて理解を深めていただくため、視覚的にわかりやすい3D洪水ハザードマップを作成した。
- ・岐阜市内10地点で堤防が決壊した後、浸水の変化を時系列で確認可能である。
- ・街を立体的に表示しているため、自分の背丈と比べたり、自分の地域でどのように洪水が起こるのか視覚的に理解できる。
- ・洪水のハザード、建物、地形情報、避難所等も表示可能であるため、自分の地域の避難所の確認や、避難経路の確認を事前に行うことができ、住民の洪水リスクの理解向上へつながる。
- ・洪水災害の実体験(昭和51年 安八豪雨災害)のない方が増えてきているため、本取組を通じて、住民の水災害の自分事化を進めていく。



▲柴橋市長



▲浸水シミュレーション動画

【岐南町】マイ・タイムラインについて、
社協主催の講座でケアマネジャーなどの
住民に周知

- ・岐南町社会福祉協議会主催の住民向け講座にて、避難行動要支援者制度をベースとした講演を実施した。
- ・講演の中でケアマネージャーに対して、マイ・タイムラインに関する話題を提供した。
- ・講座終了後はハザードマップ(マイ・タイムライン作成用シート付)の需要が増加している。
- ・講座参加者から「担当利用者と一緒にマイ・タイムラインを考えてみたい。」「ご家族様を交えて、災害発生時の行動を整理したい」という声をいただいた。
- ・本講座を契機に、多職種連携の必要性・重要性を周知するとともに、講座ほか、効果的な取り組みを行っていく。



▲後藤町長



▲マイ・タイムライン作成用シート

【瑞穂市】国と連携した防災教育の実施(説明者:宇野 企画部市民協働安全課)

- ・3年生が年間を通じて防災に取り組んでいる。
- ・何度も防災出前講座を実施しており、昭和51年災害で消防団や地域住民が積土のうを設置している動画を見せたところ、ぜひ体験してみたいという話から土のうづくり体験を行うことになった。
- ・子供たちは「どのくらい砂を入れたらいいのか」「運ぶのはすごく重い」などの質問や感想が出る中、自分たちで砂の量を調整したり、複数人で運ぶなど自ら工夫する姿が見られた。
- ・土のうづくり体験を行った後は教室に戻り、今回の体験のみで終わることがないよう、災害時の避難経路など、水災害を自分事としてとらえ、事前に何をしておくべきかをみんなで話し合った。
- ・今後、災害に対し自ら考え行動できるよう、防災教育の強化、地域の防災意識の向上を図っていく。



▲土のうづくり体験の様子

【大垣市】国土交通省と連携した実働訓練・WEB会議ツールを活用した
排水作業準備計画の確認

- ・新水門川排水機場のポンプがエンジン故障により停止したという想定で、排水機場に排水ポンプ車2台・照明車1台を派遣し、緊急排水作業訓練を実施した。
- ・WEBカメラ、ヘリコプターのカメラを配備、大垣市役所にアンテナを設置し、衛星通信を活用して排水機場での排水ポンプ車等の作業状況の映像配信を行った。
- ・新水門川排水機場は大垣市の約7割の排水を一点に担っており、大変老朽化しており、実際に排水機場が作動せずに浸水被害が生じたという前例もある。
- ・訓練の結果、排水ポンプ車の作業状況を映像でリアルタイムで確認でき、被災状況の迅速な把握、被害拡大を防ぐための対策を迅速に実施できると期待。
- ・衛星通信を活用した映像配信を行うことで、災害時においても通信環境確保ができる。



▲石田市長